

競技注意事項

1 競技規則について

- (1) 本大会は、2024年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項によって行う。
- (2) 引率責任者は、団体の場合は校長が認める当該校の職員とする。個人の場合は校長が認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された部活動指導員（地方公務員法第22条の2に示された者）も可とする。
- (3) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

2 招集について

- (1) 競技者招集所は、スタンド下雨天練習場に設ける。
- (2) 招集完了時刻は、下記の通りとする。

	招集開始	招集完了
トラック競技	40分前	20分前
フィールド競技	90分前	60分前

- (3) 招集完了時刻に遅れた者は当該競技種目を棄権したものとみなす。
- (4) 招集の手順
 - ①競技者は出場種目の招集時間（点呼開始時刻）に招集所で点呼を受けて、競技者の指示によりスタート地点又はピットに移動する。
 - ②代理人による最終点呼は認めない。ただし、2種目を兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を最初の種目の招集時に競技者係に申し出ること。
 - ③棄権する者は、招集所（招集所に準備）に用意している棄権届に必要事項を記入し、招集開始時間までに招集所に提出すること。
 - ④リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、各ラウンド毎に招集開始時刻の1時間前までに招集所にオーダー用紙（招集所に準備）を招集所関係者に提出すること。また、招集は規定とおりに受けること。オーダー用紙提出後の変更はできない。怪我等の特別な理由がある場合は本部へ申し出る。大会のドクターかトレーナーの診察を受け変更を認めることがある。招集時間完了後は変更はできない。リレー種目でドクターかトレーナーの診察を受け変更を認められ不出場になった選手は、翌日に大会へ参加する場合、再度大会ドクターかトレーナーの診断を受け出場する事が出来る。
 - ⑤リレーのエントリー以外から、リレー出場の場合はオーダー用紙の氏名の右にエントリーした多種目名を記入すること。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスはユニフォームの胸部と背部につける。但し、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳に出場する選手は、胸部又は背部だけでもよい。
- (2) トラック競技の出場者は、写真判定用の腰ナンバーカードを競技者係で受け取り、パンツの右側後方につける。腰ナンバーカードは競技終了後、速やかに競技者係に返却すること。

4 競技について

- (1) 走高跳、棒高跳の練習及び競技中のバーの上げ方は、次のとおりとする。ただし、安全面・気象条件等により変更することもある。※順位決定のためのバーの上げ下げは走高跳では2cm、棒高跳では5cm

走高跳	男子	1m50 (練習) 1m75 (練習)	1m50-1m55-1m60-1m65-1m70-1m75-1m78 (以降 3cm 刻み)
	女子	1m20 (練習) 1m40 (練習)	1m20-1m25-1m30-1m35-1m40-1m45-1m48 (以降 3cm 刻み)
棒高跳	男子	2m40 (練習)	2m40-2m60-3m00 (以降 10cm 刻み)
	女子	1m60 (練習)	1m60-1m80-2m00 (以降 10cm 刻み)

- (2) 当該競技に参加する競技者以外、競技場内に立ち入らないこと
- (3) スパイクのピンの使用は、長さは9mm以下とし、走高跳及びやり投げの場合は12mm以下とする。本数は11本以内とする。
- (4) トラック競技において、セパレートレーンを使用する種目については、フィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (5) 長距離・競歩種目については給水を設けることがある。
- (6) 4×400mリレーの第3・4走者は、競技役員の指示に従い前走者が200mスタート地点を通過した順位で、内側から並び待機する。その後に順位に変動があっても並び順を変えてはならない。尚、バトンを受け渡した後の走者は、後続の他チーム走者の走路を妨害しないように留意すること。
- (7) リレーに出場のチームは、各校のユニフォーム(同系色)を着用すること。
- (8) 通信機器(携帯電話・トランシーバー等)、ラジオ、音楽プレーヤー等の競技場内への持ち込みは禁止する。競技場内に持ち込む荷物の中にも入れないこと。
- (9) フィールド競技において滑り止めを使用するものは、各自準備すること。
- (10) 男子B砲丸投は5kg、男子B円盤投は1.5kgとする。
- (11) 100mについては、風の状況を見てバックストレートにて実施する可能性もある。

5 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) トラック競技の準決勝・決勝については、番組編成係において公平に組合せ、レーン順を決め掲示板に掲示する。
- (2) トラック競技においてプラス出場者を決める時、その最下位で同タイム者が出た場合は下記の方法で決める。
- ・100m、200m、400m、800m、100mH、110mH、400mH、4×100mR、4×400mR
同タイム者については、写真判定を拡大し、着差ありの判定をする。
それでも判定できないときは、本人又は代理人によって抽選する。
 - ・1500m
同タイム者は次のラウンドに進める。
- (3) 写真判定装置不作動の場合は、その種目の当該ラウンド全組を手動計時に変えて着順優先で決定する。

6 競技用具について

棒高跳用のポール及びやり、円盤、ハンマーで持参した物については、検定の上使用を認める。

ただし、ポール、ハンマーについては現地で検定を行う。円盤・やりについては100mスタート地点用器具倉庫前にて、競技開始1時間前に検定を行う。

7 フィールド種目の計測ライン及び計測方法・決勝試技について

- (1) フィールド種目の計測ラインについては、特に設けない。
- (2) 投擲種目については、1cmきざみで計測する。
- (3) 投擲・跳躍種目での決勝ラウンド試技順序は、記録の低い者から実施する。

8 その他

- (1) 開会式実施する。・閉会式は行わず表彰のみを行う。ただし、状況により変更もありうる。
- (2) 各種目の表彰式は実施する。表彰を受ける生徒の待機場所は雨天練習場とする。
- (3) 雨天練習場での練習は禁止とする。
- (4) 生徒が競技場に入出入りする場合は100mスタート付近と100mゴール付近の2カ所のみとする。
(正面玄関は通行できない)
- (5) 7項については気象状況により変更することもある。
- (6) 投てき競技に出場する選手は、役員の指示に従い、事故防止に留意すること。
- (7) 予選がなくなった場合には、決勝の時間に決勝のレースを行う。
- (8) 大会期間中競技場で生じた傷害や疾病は医務室で応急処置を行う。
- (9) 高体連の規定により、引率教師のない学校の出場を認めない。
- (10) 種目得点は、1位が8点・・・8位が1点とする。
- (11) 県大会出場資格
 - ・A種目上位4位まで
 - ・B種目上位2位まで
 - ・リレー種目、共通種目上位6位まで